

平成 30 年 6 月 29 日現在

機関番号：34106

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2017

課題番号：26670942

研究課題名(和文) 看護学生が避難所で看護補助を行うシステムの構築 事前教育・訓練・登録まで

研究課題名(英文) The establishment of a system to promote nursing assistant activities of nursing students at evacuation centers -Pre-learning, training, and registration-

研究代表者

小寺 直美 (NAOMI, KOTERA)

四日市看護医療大学・看護学部・講師

研究者番号：80612910

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、避難所において看護学生が安全かつ効果的な活動が行える教育プログラムの開発とプログラムを継続的に実施するためのシステム構築であった。教育プログラムは、被災地の看護師のインタビュー調査から抽出された6項目をもとに講義内容を構成し、4回のプログラム実施を通して完成した。システム構築では、大学組織内の「看護研究交流センター」のプロジェクトの一環として継続していける体制を検討している。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to develop an educational program to help nursing students perform safe and effective support activities at evacuation centers, and establish a system to ensure the continuous implementation of the program. The educational program consisted of lectures on 6 concepts extracted from the interview data of nurses who have worked in disaster-affected areas, and was developed after performing the program 4 times. We examined ways to establish a system that can be continued as a part of projects of the "center for nursing research exchange" conducted within university organizations.

研究分野：看護

キーワード：災害看護 看護学生 避難所 ボランティア

1. 研究開始当初の背景

東日本大震災直後の避難所では、DMAT や被災地外の医療職者による医療ボランティア活動が行われた。しかし、避難所では軽度の傷病者や要介護者、慢性疾患患者などが多く避難してきたため、災害時の救命的な行為は必要とされず医療ボランティアは避難所を転々とした。避難所で必要とされた人材は、慢性疾患患者や要介護者の看護を行う者や、避難所の衛生管理を行う者であった(キャンパス; 朝日新聞; 2011)。研究者らの震災直後に活動した看護職者へのインタビューでは、災害発生後の2週間程度が医療機関や避難所での看護師不足のピークであったことと、そのマンパワー不足を無資格者のボランティアが補っていたことから、医療の知識のある看護学生が補うことも可能であるという結果を得ている。しかし、東日本大震災で行われた看護学生のボランティア活動は、事前訓練や学校の管理下でない状況で行われ、学生と避難者双方にリスクを伴うものであった。そこで、看護師不足が予測される災害発生直後の避難所で、事前に必要とされるケア内容を洗い出しその訓練を行うことで、看護学生が看護師の指示のもとであれば避難者のケアの担い手として安全かつ効果的に活動できると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、大規模災害時に看護学生が看護補助ボランティア員として、避難所で軽度の傷病者の処置や要介護者のおむつ交換、体位変換などの活動を安全かつ効果的に実施できるための教育プログラムの開発と、その継続を可能にするシステム構築であった。

3. 研究の方法

1) 教育プログラム開発のための東北被災地でのインタビュー調査

(1) 目的は、東日本大震災発生後から2週間の間になんらかのボランティア活動をしていた看護職者にインタビューを行い、必要とされた支援、看護学生が実施可能なボランティア活動は何かを明らかにする。

(2) 対象は、東日本大震災発生直後に看護活動を行った当時の看護学生や看護職6名。

(3) 調査内容は、避難所で実施されていた医療・看護・介護内容についてインタビューを行った。

(4) 本研究は、四日市看護医療大学研究倫理審査委員会の承認を得て行った。(承認番号92)

2) 教育プログラムの開発

(1) プレプログラムの作成

インタビューの結果を逐語録に起こし、実

際に行った看護活動の内容・場所・対象・活動を行った理由・方法・一緒に活動したメンバーを抽出した。

インタビュー調査から抽出された項目を、日本看護協会災害支援ナース活動記録集計、臨地実習において看護学生が行う基本的な看護技術の水準、本学のカリキュラム進捗等を参考に分析し、プレプログラムを作成した。

プレプログラムの実施

夏季休業期間である2015年8月20日・21日に実施し、参加した学生は3・4年生9名であった。

プレプログラムの評価

評価は、プレプログラムの項目から6下位尺度21項目の質問票を独自に作成し、現時点での知識や技術についてどれくらい自信があるかプレプログラム実施前後に調査した。さらに、終了後、「開催時期・期間・場所」、「プログラム内容や時間」の改善点について非構造化面接を行った。

本研究は、四日市看護医療大学研究倫理審査委員会の承認を得て行った。(承認番号84)

(2) プログラム Ver.2 の開発

プログラム Ver.2 の作成

プレプログラム実施後の評価を研究者間で検討し、プログラム Ver.2 を作成した。

プログラム Ver.2 の実施

2016年3月29日・30日に実施した。参加者は看護学生7名(1年生1名、2年生6名)であった。

プログラム Ver.2 の評価

プレプログラムと同様、実施前後にアンケートと非構造化面接を行い、教育プログラム ver.2 の評価を行った。また、プレプログラムとプログラム Ver.2 は研究者間のみの検討であったため、客観的な評価を受けるため、災害看護学に精通した2名にスーパーバイズを受けた。

本研究は、四日市看護医療大学研究倫理審査委員会の承認を得て行った。(承認番号92)

(3) プログラム Ver.3 の開発

プログラム Ver.3 の作成

プログラム Ver.2 実施後の評価と、スーパーバイザーからのアドバイスを基に研究者間で検討し、プログラム Ver.3 を作成した。

プログラム Ver.3 の実施

2016年9月7日・8日と2017年8月23日・24日に実施した。参加者は看護学生8名(1年生1名、2年生3名、3年生2名、4年生2名)であった。

プログラム Ver.3 の評価

プレプログラム・プログラム Ver.2 と同様、実施前後にアンケートと非構造化面接を行い、プログラム ver.3 の評価を行った。

本研究は、四日市看護医療大学研究倫理審査委員会の承認を得て行った。(承認番号107)

アンケート結果では受講の満足度や現時点での知識や技術についての自信度は全体的に上昇しているため概ねプログラムとして適した内容であると判断し、プログラムの内容は新たな追加や削除を行わず1・2年生と3・4年生では教授方法を工夫するなどして演習を行えばプログラムとして活用できるのではないかと考えた。

プレプログラムとプログラム Ver.2 は研究者間でのみの検討であったため、客観的な評価を受けるため、災害看護学に精通した2名にスーパーバイズを受けた。スーパーバイザーから「ボランティア論を追加してみても」と「エコノミークラス症候群について、講義だけではなく演習も追加してみても」と意見があり、研究者間で検討し追加修正し「看護学生による災害時看護補助ボランティアプログラム Ver.3 (プログラム Ver.3)」を作成した(表2)。

表2. プログラム Ver.3

日時	時間	単元	内容	形式
8/23 (水)	10:00-10:20 (20分)	オリエンテーション・自己紹介	プログラムの目的 スケジュール・終了後アンケートのお願	
	10:20-10:40 (20分)	災害看護の基礎知識	自己紹介	
	10:40-11:10 (30分)		災害ボランティア 災害時の情報収集と伝達 災害時のボランティア活動の心構えと個人の準備 災害と倫理	講義
	11:10-11:40 (30分)	災害時要援護者への理解	災害時要援護者とは 妊産婦、新生児、小児、高齢者、精神疾患、慢性疾患、障害者、外国人	講義
	11:40-12:25 (45分)	被災者の心理・援助者の心理への理解と援助	被災者の心理的特徴と援助 援助者の心理状態とその特徴 コミュニケーション 被災者とのコミュニケーション	講義 演習
	12:25-12:50 (25分)	ランチオンセミナー	ボランティア経験のある先輩とディスカッション	
	13:20-14:50 (90分)	災害時に必要な看護技術	看護師・医師へ報告する判断基準 応急処置・搬送技術(創傷、毛布使用、二人法、運送) 問診とフィジカルアセスメント、 バイタルサイン	講義 演習 演習
	14:50-15:50 (60分)		避難所における保健・衛生管理・感染症対策 衛生管理と衛生指導(足、動物、手洗い、トイレ、靴、廊下) 感染症に対する健康危機管理	講義
	15:50-16:00 (10分)	明日のスケジュール確認	本日の感想 明日のスケジュールについて説明	
	8/24 (木)	10:00-10:10 (10分)	本日のスケジュール	本日の進行方法について説明
10:10-10:25 (15分)		避難所体験 水のいらないシャンプー-清拭体験の感想発表		演習
10:25-11:30 (45分)		災害時に必要な看護技術	【演習4】 避難所内環境 常備食のアレンジ 食料の分配と渡し方 少量の水を使用して手指の清潔ケア	演習
11:30-12:30 (60分)			ランチオンセミナー 避難所体験 避難所スペースでの食事	
12:30-12:45 (15分)		災害時に必要な看護技術	【演習5】 少量の水を使用して口腔ケアの実施	演習
12:45-14:00 (90分)			【演習6】 エコノミークラス症候群の予防と早期発見 避難所の立ち上げと被災者の受け入れ	演習 講義
14:00-15:30 (90分)		避難所運営	【演習7】 避難所運営ゲーム(HUG) グループワーク(それぞれのグループ発表)	演習
15:30-15:45 (15分)		振り返り	それぞれ感想を述べる 作業より発表	
15:45-16:00 (15分)		アンケート	プログラムに関するアンケートの実施 後日、面談のお願い	

プログラム Ver.3 は、2016年9月7日・8日と2017年8月23日・24日に実施した。参加者は看護学生8名(1年生1名、2年生3名、3年生2名、4年生2名)であった。

アンケート結果では、受講の満足度や現時点での知識や技術についての自信度は全体的に上昇しており、教育効果が認められた。学年によって学習進度の違いがあるため、学びの差が出ないように説明を加えるなど教授方法を工夫すれば、1年生から4年生まで使用できる教育プログラムであることが明らかになった(図3, 図4)。



図3. プログラム Ver.3の様子(搬送技術)



図4. プログラム Ver.3の様子(避難所スペースでの食事)

2) 災害時看護補助ボランティア員の派遣・活動を可能とする継続可能なシステムの構築

教育プログラムを継続的に実施するためのシステム構築では、継続可能なシステム構築のため、大学組織内に災害ボランティア教育研究センターを設置し、教職員と学生が中心となり運営していくことを計画していた。

本学では、平成26年度から「看護研究交流センター」が開設された。この組織は、地域貢献、地域交流、看護師の資質向上、卒業生・在校生への支援など多彩な目的を有し、教職員がプロジェクトとして申請できる。平成26年から「災害教育プロジェクト」として申請し、学内の防災訓練や地域住民との交流ができる学祭で防災・減災に関する啓発活動を行ってきた(図5, 図6)。



図5．学内の防災訓練の様子



図6．学祭の様子

研究終了後は「災害教育プロジェクト」の企画で「看護学生による災害時看護補助ボランティアプログラム Ver.3」を継続して実施し、看護学生ボランティア員の募集やプログラムの実施を継続していける体制として検討している。

5．主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔学会発表〕(計 1 件)

小寺直美，小笠原ゆかり，中神克之，児屋野仁美，蓑田さゆり，看護学生の災害時看護補助ボランティア教育プログラムの開発ーブレプログラムの実施・評価ー、日本集団災害医学会総会，2016

6．研究組織

(1)研究代表者

小寺 直美 (KOTERA Naomi)
四日市看護医療大学・看護学部・講師
研究者番号：80612910

(2)研究分担者

中神 克之 (NAKAGAMI Katsuyuki)
四日市看護医療大学・看護学部・講師
研究者番号：20551237

小笠原 ゆかり (OGASAWARA Yukari)
四日市看護医療大学・看護学部・准教授
研究者番号：50335048

蓑田 さゆり (MINODA Sayuri)
鈴鹿医療科学大学・看護学部・准教授
研究者番号：60460648

水野ルーイス 里美 (MIZUNO-Lewis Satomi)
四日市看護医療大学・看護学部・助手
研究者番号：90583790

児屋野 仁美 (KOYANO Hitomi)
四日市看護医療大学・看護学部・助教
研究者番号：80644400